

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

1

第一幕 第1場

1521年5月 パンプローナ城の広間

登場人物： 騎士 イニゴ・デ・ロヨラ
城主 フランシスコ・デ・エレラ
騎士 ホアン
騎士 ロドリゴ
物見 ミゲル

(張り詰めた雰囲気の中で作戦会議が行われている。物見ミゲルが駆け込んでくる)

ミゲル：東の森にフランス軍の旗が見え始めました。屋上から見る限り、相当長い隊列のようです。

ホアン：今朝の報告ではナバル軍と合わせてわが方の数倍に達するとのこと。この城の人数では到底持ちこたえられないでしょう。

ロドリゴ：パンプローナの町はほぼ占領されたとのこと。この城に達するのも時間の問題でしょう。城まで敵が近づかないうちに和を講じて、無駄な血を流さないようにしましょう。

城主：一戦も交えずに、城を明け渡すというのか？

ロドリゴ：多勢に無勢、今我らに利あらず、と見ます。フランソア I 世の総司令官は開城を迫っています。

イニゴ：イスパニアの援軍が間もなくやってきます。それまでこの城を死守することこそ我々の努めと考えます。おめおめ敵に降伏したりすれば、イスパニアの騎士の名が廃れます。我らを頼りにしている姫君たちにも顔向けできません。方がた、城を枕に討ち死にし、我らの命を国王陛下と女王陛下にお捧げしようではありませんか。

城主：イニゴの言うとおり！諸君、この由緒ある城を守り抜こうではないか！

【黒い使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ その調子 騎士の名誉を 守り抜け
かの姫君の 汝への 信頼もまた いや増さん
天晴イニゴ 名を挙げよ

【白衣の天使の合唱】

♪ああイニゴ 神と親より 汝なが受けし 尊き命
捧げんと 息巻きおれど その時は いまだ来たらず
汝が言葉 武くはあれど もののふの 野心に満てり

《かげのこえ＝註》

『靈操』の生みの親である聖イグナチオの生涯をたどることにより、靈操の生まれた契機と背景を知り、聖イグナチオの靈性への理解がいささかでも深まるようすがともなればと、連載を始めてみました。気軽に、面白く読んでいただければと、劇の形にしてみましたものの、どこまでこの様式を続けられるのか心もとなくもあります。

『靈操』において大切な「靈の識別」との関連から、巡礼者イニゴの内心に去来する考えや、その靈を動かす善靈と悪靈を合唱(コロス、コーラス)の形で表してみました。果たしてうまくいきますか？ 菲才を顧みず始めるのは、(回心前の)「イニゴ的向こう見ず」に由来し、また、途中から読者がしびれを切らして、ご自分で『自叙伝』を紐解かれ、聖人が晩年カマラ神父に語った「生の声」を聴かれるようになればとの思いからでもあります。